

# ボクのワタシの 学校自慢

Vol.8  
皿沼小学校編(1)

『ボクのワタシの学校自慢』では、鹿浜地域学習センター近隣小・中学校の学校自慢をご紹介します。小学校編のラストを飾るのは足立区立皿沼小学校。1月号では皿沼小学校で開催されたパラスポーツ体験の様子をお伝えします。

## パラスポーツを体験して障がいの理解を深める

### パラリンピック競技を体験

10/29(水)、皿沼小学校の体育館では、4年1組と3年1組の授業でパラスポーツ体験が行われました。

足立区ではパラスポーツの推進にも力を入れており、東京ヴェルディ株式会社から講師を招いて足立区の小学校全67校の授業でパラスポーツ体験を取り入れています。

体験できるパラスポーツはデフサッカー・ブラインドフットボール・シッティングバレー・アンプティサッカー・ボッチャの5種から学校が選択しています。

### ブラインドフットボールのルールを体験

今回皿沼小学校では、パラリンピックの競技でもある「ブラインドフットボール」にちなんだ体験が行われました。ブラインドフットボールとは、視覚障がいをもつ選手が音の鳴るボールやかけ声を頼りにゴールを目指すサッカーです。

視覚障がいでも見え方に違いがあるため、公平性を期すためゴールキーパー以外のフィールドプレイヤーはアイマスクをつけてプレイをします。

児童たちも見えない状態ではどんなことが大変なのかを、アイマスクを着用してオリエンテーションを行うことで体験しました。

### 目隠しをしている人へ伝える難しさ

最初に行われたのは、班ごとに誕生日が早い順に整列しなおすゲーム。目隠しをすると今話している子が誰なのか分からず、すでに並んでいる子の立ち位置の把握が困難でした。児童たちは先に並んでいた子が床をたたいて場所を知らせ、何度も名前を呼び合ってゲームに挑んでいました。

2つ目は、アイマスクを着用した子をガイド役の子が目標の位置までかけ声や手拍子だけで誘導する体験です。「あとちょっと」「もうちょっと右」など曖昧な指示では相手に伝わらず、「あと2歩前へ出て」「1歩分左」などどうしたら分かりやすいかを考えて伝えていました。



▲パラスポーツの説明を聞く様子



▲アイマスクをつけて目が見えない状態を体験



▲アイマスクを着けている子をガイドする様子

### パラスポーツの難しさと楽しさを知る

最後にブラインドフットボールで実際に使われている、音が鳴るサッカーボールでドリブルに挑戦しました。

アイマスクを着用し誘導に従ってドリブルしながら目標地点を目指します。足元で小さく蹴って常に音を出し続けないと、すぐにボールが今どこにあるのか分からなくなってしまい、約5メートルの距離でも苦戦していました。

普段自分たちがしているサッカーとの違いを体験した児童は、パラスポーツの楽しさを知ると共に、興味を深めることができたようでした。



▲ドリブルする子のガイドをする様子

### 講師インタビュー

東京ヴェルディでは社会貢献の一環としてパラスポーツの体験を通して障がいを理解するための出前授業を行っています。足立区以外にも多摩市や北区、港区、日野市、八王子市など色々な市区で活動をしています。中でも、足立区は区が障がい者理解の推進に積極的で区内の全小学校を回っています。

元々はサッカーコーチとして活動していましたが、誰もが住みやすい街づくりがしたいと思い、現在は障がいスポーツの普及をメインに活動しています。こうした体験を通して「障がいの有無にかかわらずスポーツは一緒に楽しむことができる」ということを広く知ってほしいと思います。



▲東京ヴェルディ株式会社 普及コーチ 河野悠斗様

### 児童インタビュー

パラスポーツについては今日の授業で初めて知りました。

実際にアイマスクを着けて動いた時は少し不安でした。でもガイドの子の声やボールを蹴った時の音が聞こえて、ボールがどこへ行ってしまったかもわかって蹴ることができました。少し工夫すればスポーツは誰でもできるのだなと、今日の体験を通して知ることができました。

パラスポーツにも興味が出て、これからテレビでやっていたら見てみたいと思いました。



▲4年1組 石井 桜さん

### 足立区立皿沼小学校紹介

<スローガン> 学習も生活も自分で考えて行動する

<児童像>

■ 進んで学ぶ子

■ 仲よく、助け合う子

■ 明るい元気な子



▲皿沼小学校外観



▲皿沼小学校外観

### お知らせ

次号では皿沼小学校が、加賀保育園・加賀中学校と合同で行った加賀・皿沼地域の清掃活動の様子を報告します。